

 **子ども大学かわごえ**
CUK だより

第60号 NO.150105
2015年1月15日

子ども大学かわごえ 第7期 第5回 授業記録

ハヤシ海運株式会社協賛 2014年第1回冠(寄付)講座

タイトル 『万葉の心 音楽劇』

あいさつ ハヤシ海運株式会社 林典夫会長

講師 酒井一郎 早稲田大学産業経営研究所特別研究員

小林範子 子ども大学かわごえ客員教授

参加 子ども大学ジュニア合唱団

子ども大学新聞部特別朗読チーム

教室 尚美学園大学川越キャンパス 教育棟オーディトリウム

1. はじめに

ハヤシ海運株式会社林典夫会長から海運業の簡潔な説明と同社の社会貢献活動の一端として子ども大学かわごえの教育活動へ資金的支援を行うことになった旨説明がありました。

2. 万葉集の特長

万葉集はわが国で最初に出来た歌集で、農民や一般の人々の歌が沢山集まって出来ています。1300年-1400年前の私たちの先祖の人々が何を考え、どのように生活していたかを、万葉集の歌を通して知るとは、非常に興味深いことです。

私たち(酒井と小林)は和歌の専門家ではありませんから歌のうまい下手の判断はできません。しかし万葉集をひも解くことによって、当時の人々の息吹を感じ、当時の人たちの生き様を追想するという事は、我々素人でも十分できるのではないかと考えます。

今から1400年も前に歌われていた歌は文字で表現されたものではなく、人々が声に出して歌ったり、口ずさんだりしたものです。ですから万葉集の和歌を正しく鑑賞しようとする、目で文章を読むのではなく、口に出して歌ってみる必要があります。

3. 万葉集の背景・歴史

万葉集が生まれたのは7世紀です。万葉集の歌は、古墳時代末、飛鳥時代、奈良時代と1世紀半にわたって集められました。この時代は日本が国家として発展する大切な時代です。古墳時代の後は、飛鳥時代ですが、飛鳥時代というとみなさんがよく知っている聖徳太子が活躍した時代です。また、天智天皇、天武天皇、持統天皇と優秀な天皇が続き、日本の政治の基礎を固めました。

ところで飛鳥時代には、3つの天下をひっくり返すような大事件がありました。



1) 大化の改新

天智天皇は、天皇になる以前は皇太子の中大兄皇子（なかのおうえのおうじ）と呼ばれていました。皇子は当時天皇を無視して勝手な政治を行っていた豪族の蘇我入鹿を中臣鎌足などと共謀して殺害しました。いわゆる「乙巳（いっし）の変」です。蘇我入鹿を排除することに成功した中大兄皇子は天皇に政治の権力を集中することに成功して、「大化の改新」という大改革を実現しました。

2) 白村江（はくすきのえ）の敗戦 / 防人（さきもり）の制度

663年当時の日本「倭」は朝鮮半島の白村江という所で中国の唐と朝鮮の新羅の連合軍と戦い、作戦がまずくて大敗けをしました。そして逆に彼らから攻め込まれるとまずいと考えた天智天皇は、北九州の海岸へ防衛線を築きました。そして東国で兵士を集めて、北九州へ送り防衛に当たらせました。いわゆる防人の制度です。

3) 壬申の乱（じんしんのらん）

天武天皇（大海人の皇子）は天智天皇の弟。天智天皇が死んだあと、大友皇子（弘文天皇）が後を継ぎましたが、その方針に反対した弟の天武天皇が地方豪族を味方に付けて反乱を起こして勝利しました。いわゆる日本古代最大の内乱である「壬申の乱」です。

4. 万葉集の歌人たち

1) 雄略天皇

古墳時代に武勇に優れた雄略天皇（ヤマト名ワカタケル）が現れて、日本の各地を征服しました。（ワカタケルの名前は、埼玉県稲荷山古墳から出土した鉄剣に、金文字で銘が彫られています。）その雄略天皇の歌が万葉集の最初に紹介されています。

籠（こ）もよ み籠（こ）持ち 掘串（ふくし）もよ
み掘串（ふくし）持ち この丘に 菜摘（なつ）ます児（こ）
家聞かな 名告（なの）らさね （以下略）

籠（かご）よ 美しい籠を持ち 籠（へら）よ 美しい籠を手に持ち この丘で菜を 摘む乙女よ 君はどこの家の娘なの？名はなんと云うのという歌で始まります。天皇が宮殿から一人で出てきて、村娘に会ったときに親しく声をかけています。このような庶民的な歌が歌集の最初に出てくるのは、いかにも万葉集ですね。

2) 持統天皇

持統天皇は天智天皇の娘で天武天皇の妃です。天武天皇が死んだ後、女帝ながら皇位につきました。古事記などを編纂させた方です。

春過ぎて夏来（きた）るらし 白妙（しろたへ）の
衣乾（ころもほ）したり 天（あま）の香具山（かぐやま）

3) 額田王と天武天皇

才気煥発で美人の女性・額田王は宮廷で大活躍をしたいわゆる“飛んでいる女性”でした。最初天武天皇の妻でしたが、兄の天智天皇に見初められて彼の妻になった女性で、この時代を代表する詩情豊かな女性歌人です。その額田王が皇族の一団とピクニックへ行ったとき、前の夫の天武天皇に出会い、そのときに交わした歌と、それに対する天武天皇の歌が万葉集に収められています。



あかねさす 紫野(むらさきの)行き 標野(しめの)行き
野守(のもり)は見ずや 君が袖振る

(標野とは天皇領の山野；天武天皇の大っぴらなアプローチに困っています)

天武天皇の当意即妙の返歌：

紫草(むらさき)の にほへる妹(いも)を 憎(にく)くあらば
人妻ゆゑに われ恋ひめやも

(貴女が憎ければ何で人妻を恋しく思うのだろう!“むらさきの”という見事な受け答えが魅力)

4) 大津皇子と大伯皇女の悲劇

陰謀に巻き込まれて死を予感した天武天皇の皇子・大津皇子が伊勢神宮にいる最愛の姉の大伯皇女に別れを告げに行った後で、彼女が歌った歌が2首あります。

わが背子(せこ)を 大和へ遣(や)ると さ夜深(ふ)けて 暁(あかとき)露(つゆ)に
わが立ち濡れし

(最愛の弟が大和へ帰るのをいつまでも見送って暁の露に濡れた)

二人行けど 行き過ぎ難き秋山を いかにか君が独り越ゆらむ

大和へ帰った大津の皇子は次の歌を残して数日後刑に服して亡くなりました。

ももづたふ 磐余(いはれ)の池に鳴く鴨(かも)を 今日(けふ)のみ見てや 雲隠(がく)りな
む

(昔からあるいわれの池で鳴く鴨も今日で見納めである)

5) 柿本人麻呂

東(ひむがし)の野に炎(かぎろひ)の立つ見えて かへり見すれば 月傾(かたぶき)きぬ

(この歌には先に亡くなった草壁皇子とこれから皇位につこうとしている軽皇子(後の文武天皇)の運命が象徴されているという寓意があるとのこと)

6) 山部赤人 自然の素晴らしさを歌った歌聖の一人である。

田子の浦ゆ うち出でてみれば 真白にぞ 富士の高嶺に 雪は降りける

7) 山上憶良

憶良は官吏で歌人であり、下層階級の人たちに温かいまなざしを向け、貧しい人たちの苦しみ、すなわち貧・老・病・死を歌にしました。このように彼は万葉集では珍しい社会派歌人で、家族愛を歌った歌や「貧窮問答歌」などが有名。

瓜食(うりは)めば 子ども思うほゆ 栗食めば まして偲(しぬ)はゆ

いづくより来りしものそ 目交(まかなひ)に もとなかかりて 安眠(やすい)しなさぬ
(この子はどこから来たのか？その姿が目の前にちらついて安眠させてくれない)

銀も金も玉も 何せむに まされる宝 子にしかめやも



8) 大伴家持

奈良時代の優れた歌人として数々の作品を残し、万葉集の編纂に大いに貢献しました。家持は大伴一族の代表者として政治的に大変苦労した人です。これらの2首の歌は万葉集の最高峰をいく絶唱と言われていますが、家持の憂いがよく読みとれます。

春の野に 霞たなびき うら悲し この夕かげに 鶯鳴くも
うらうらに 照れる春日に ひばり上がり 心悲しも独し思へば

西暦 759 年の正月、家持は万葉集最後の歌（4516 番目）を、新年には吉い事が沢山あるようにと期待を込めて詠みました。家持はこの歌を最後に作歌活動を止めました。

新（あらた）しき 年の初めの 初春（はつはる）の今日（けふ）降る雪の
いや重（し）け吉事（よごと）

5. 防人の歌

防人に選ばれた若者は東国から北九州の防衛のため、長い道のりを徒歩や船で出かけました。彼らが妻や子どもや親たちとの別れの辛さを歌った歌は率直で 1400 年後も私たちの胸を打ちます。

天地（あめつち）のいづれの神を祈らばか
愛（うつく）し母にまた言とはむ
（どの神に祈れば、いとしい母に会えるのか？）

水鳥の 立ちの急ぎに父母に 物言はず来にて
今ぞ悔しき
（水鳥が急に飛びたつように慌しく家を飛び出し、父母にちゃんと別れを言わずに来てしまった）



唐衣（からころも） 裾に取り付き泣く子らを 置いてぞ来のや 母なし にして
（着物の裾にしがみついて泣いたわが子を振り払って来てしまった。母親のいない子どもたちなのに）

6. 東歌

防人の歌とは別に、当時東国で色々な人によって広く和歌が歌われていました。方言の混じった歌も沢山あります。当時のいわゆる庶民が何を考えていたのかよくわかります。とりあえず 2 首紹介します。

多摩川に さらす手作り さらさらに 何そこの児の ここだかなしき
（多摩川にさらしている手作りの布のように、さらにいっそうこの子は特別に可愛いのだろうか）

稲つけば 皺（かか）るわが手を 今宵もか 殿の若子が 取りて嘆かむ
（稲をつくると手があかぎれるので、今夜もお屋敷の若様が嘆くのだろうか）

おわりに

今回の授業では、小林講師が自分の作曲した万葉集の山上憶良など 10 曲近くの歌を独唱によって朗々と披露すると共に、音楽部と新聞部の学生有志により結成された朗読・合唱チームと一緒に合唱するなど、賑やかな授業となりました。その歌曲の他に朗読合唱チームが 30 数首の和歌を朗読しましたが、その声や歌の響きをここに再現できないのは真に残念です。 酒井

学長 遠藤克弥

事務局

NPO法人子ども大学かわごえ
〒350-1109 川越市霞ヶ関北 3-12-6
霞ヶ関北自治会館内



H-P <http://www.cuk.or.jp>

TEL 080-2053-2991（事務局直通）

FAX 049-233-1640F

E_MAIL info@cuk.or.jp